

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科1年B組

科目名	キャリアガイダンス(688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	大内 香那子				実務経験内容	
					[大内]求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次	科目のねらい・到達目標	
	2	-	-	-		
<p>仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
授業形態	演習	教室	各教室	補助教員	なし	
<p>就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
教科書 教材	仕事力を身に付ける20のステップ					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回	
【前期】	
1回	サンクスドリルの意義と使い方
2回～3回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する
4回～6回	意見をつくる力
7回～9回	聞く力・話す力
10回～12回	自己理解
13回～15回	仕事理解
16回	サンクスドリル基礎学力テスト
●授業時間：2単位時間/回	
【後期】	
1回～3回	自己PR作成
4回～6回	先輩トークセッション
7回～9回	就活成功3ヶ条
10回～12回	選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）
13回～15回	面接（個人・グループディスカッション）
16回	サンクスドリル基礎学力テスト

評価コード	11
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	コンピュータ基礎(690)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	舟橋 孝光・佐々木 伸之				実務経験内容	
					[舟橋] 教育機関の社内SEとして教務システムやネットワーク、サーバなどの運用・保守を経験。プログラミングの経験を生かして講義を行う。 [佐々木] プログラマー、テスター、システム運用保守、システムエンジニアとして、開発から運用・保守、上流工程まで様々な業務を担当。その際の多様な分野に携わってきた知識・経験を活かして講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	5	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
情報処理の検定試験、国家試験合格を目指す。ハードウェア、ソフトウェア、情報処理システムなど分野ごとに習熟度を高めて総合的な知識を身に付ける。身に付けた基礎知識を活かして、上級学年では応用情報技術者試験合格を目指す。						
授業形態	講義	教室	165教室	補助教員	なし	
教科書を使用して座学形式で実施する。演習問題は適宜授業内で配布したり、ウェブの学習サイトを使用して解答したりする。学習サイトを使用する際はノート型パソコンを使用する。						
教科書 教材	ITワールド（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：3 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>ITワールド</p> <p>1～ 8回 基本構成、データ表現、中央処理装置と主記憶装置、問題演習</p> <p>11～16回 補助記憶装置、入出力装置、情報処理システムの処理形態、問題演習</p> <p>17～24回 高信頼化システムの構成、情報処理システムの評価、問題演習</p> <p>25～32回 ソフトウェアの分類、OS、言語と言語プロセッサ、ファイル、基本情報技術者試験対策演習</p> <p>IT戦略とマネジメント</p> <p>1～ 4回 企業と法務、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ</p> <p>5～ 12回 情報システム戦略、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント</p> <p>13～16回 システム監査と内部統制、基本情報技術者試験午前対策演習</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>ITワールド</p> <p>1～16回 基本情報技術者試験対策演習問題</p> <p>17～32回 応用情報技術者試験午前対策演習問題</p>
--

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	--

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科1年B組

科目名	アルゴリズム(723)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	北畑 良祐				実務経験内容	
					[北畑] システムエンジニアとしてアプリケーション開発業務に従事。その際の知識・経験を活かして講義をする。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
コンピューターでの処理手順をフローチャートと擬似言語で記述できるようにすることにより、プログラミングスキル向上へとつなげる。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。						
授業形態	講義	教室	配信授業	補助教員	なし	
テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。理解度を深めるための授業資料（データ）も扱うので、ノート型パソコンを使う。						
教科書 教材	疑似言語で学ぶアルゴリズム（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1 回 アルゴリズムと流れ図</p> <p>2～3 回 変数</p> <p>4～5 回 擬似言語</p> <p>6～8 回 基本データ処理</p> <p>9～12 回 配列</p> <p>13～16 回 探索処理</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～24 回 整列処理</p> <p>25～27 回 データ構造</p> <p>28～30 回 オブジェクト指向</p> <p>31～32 回 総合演習</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	プログラミング技法 I (724)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	土屋 凌介				実務経験内容	
					[土屋] エンジニアとして、大学のネット出願、会計の基幹システムの設計・開発を担当。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
将来の IT エンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、Java（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Java を学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身に付け、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。また、基本的なアルゴリズムも同時に習得し、1年次下期または2年次上期の基本情報技術者試験合格も目指す。						
授業形態	講義	教室	165 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教科書 教材	スッキリわかる Java 入門 第4版 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回 プログラミング環境構築、Java プログラムの書き方（プロジェクト、クラスファイルの作成）</p> <p>3～5 回 コンソールへの出力、変数宣言、リテラル、演算、演習</p> <p>6～9 回 条件分岐(if 文、switch 文)、演習</p> <p>10～14 回 繰り返し(for 文)、演習</p> <p>15～20 回 繰り返し(while 文、do-while 文)、演習</p> <p>21～27 回 二重ループ、無限ループ、演習</p> <p>28～31 回 配列、演習</p> <p>32～35 回 多次元配列、演習</p> <p>36～40 回 メソッド、演習</p> <p>40～48 回 複数クラス構成、演習</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>49～56 回 プログラム作成演習 1</p> <p>57～64 回 プログラム作成演習 2</p> <p>63～72 回 プログラム作成演習 3</p> <p>73～80 回 プログラム作成演習 4</p> <p>81～88 回 プログラム作成演習 5</p> <p>87～96 回 プログラム作成演習 6</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	システムデザイン I (841)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	荒木 俊行				実務経験内容	
					[荒木] システムエンジニアとして様々なシステムの構築、運用、保守に携わった。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
システムを構築するために必要な知識を習得する。ウォーターフォール型開発、アジャイル型開発など、各種システム設計技法の基礎知識を座学中心で学んでいく。システムエンジニアとしての知識習得を目的とするとともに、基本情報技術者試験合格をはじめとした、情報処理技術者試験合格も目指す。						
授業形態	演習	教室	174 教室	補助教員	なし	
テキストを基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。また、国家資格取得を視野に入れた形の問題演習も同時に行う。						
教科書教材	IT ワールド / IT 戦略とマネジメント					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～6 回 システム開発技術（SLCP 開発プロセス）、演習問題</p> <p>7～12 回 ソフトウェア開発技術、演習問題</p> <p>13～16 回 基本情報技術者試験対策演習</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～22 回 システム開発環境、演習問題</p> <p>23～28 回 Web アプリケーション開発、演習問題</p> <p>29～32 回 総合演習</p>						
--	--	--	--	--	--	--

評価コード 11

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	データベース I (728)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	安藤 巧				実務経験内容	
					[安藤] システムエンジニアとして社内システムの構築・運用・保守を担当。また、社内データベースサーバ構築・運用・保守にも携わっている。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
コンピュータシステムに不可欠であるデータベースについて、その基礎知識を学ぶとともに、データベースを操作する言語である SQL についても学ぶ。また、データベースの管理等の手法についても学び、システムエンジニアとして必要とされるスキルを身につける。さらに、国家資格である基本情報技術者試験取得を目指すとともに、上位資格につながる知識も修得する。						
授業形態	講義	教室	配信授業	補助教員	なし	
テキストおよび配布資料を使用し、座学形式で行う。国家資格や各種検定取得も視野に入れながら、問題演習も実施する。定期的に小テストを行い、知識の定着を目指す。						
教科書 教材	IT ワールド 教員が用意する補助教材 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
1 回 初回ガイダンス、目標資格と関連資格の紹介						
2 回 データベースの概要、問題演習						
3～4 回 データモデル、問題演習						
5～6 回 トランザクション処理、問題演習						
7～8 回 E-R 図と関係 DB、問題演習						
9～11 回 SQL、問題演習						
12 回 いろいろなデータベース、問題演習						
13～16 回 基本情報技術者試験 対策演習						

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>					

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	データベースⅡ(729)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	森 久				実務経験内容	
					[森] システムエンジニアとして、業務システムを中心としたシステム開発の上流から下流、保守・運用を担当。その際の知識・経験を活かして、データベースの操作を講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
データベースⅠでSQLについて学んだ。 データベースⅡではSQLをさらに深く、かつ実践的に学び、プログラマとして必要な技術の取得を目指す。						
授業形態	講義	教室	165教室	補助教員	なし	
テキストを使用し座学形式で実施。貸与している各自のノートパソコンを使い、実際にSQLを入力・実行することで動作を確認する。						
教科書 教材	改訂第4版 すらすらと手が動くようになる SQL書き方ドリル 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回 【後期】 1～6回 1つのテーブルを扱う 7～12回 複数のテーブルを扱う 13～18回 追加・更新・削除 19～24回 データベースで実現しよう 25～32回 応用問題						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> </ul> </li> <li>前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>					

## シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	ネットワーク(712)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	鳥居 茂希				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
ネットワーク技術の代表的なものである、インターネットや LAN についての仕組みを中心に、基礎知識を理解していく。 ネットワーク技術は、学校や企業では勿論のこと、一般家庭においても無くてはならないものとなっている。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。						
授業形態	講義	教室	配信授業	補助教員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノートパソコンを使った演習も行う。演習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、ファイルサーバにあるものを利用する。						
教科書 教材	IT ワールド(前期毎授業で使用) 図解入門 TCP/IP(後期毎授業で使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
1～ 2 回 インターネット						
3～ 5 回 ネットワークアーキテクチャ						
6～ 8 回 LAN						
9～ 11 回 ネットワークの仕組み						
12～14 回 ネットワーク管理						
15～16 回 総合演習						
●授業時間：2 単位時間/回						
【後期】						
17～18 回 ネットワークの基礎						
19～20 回 物理層						
21～22 回 データリンク層						
23～26 回 ネットワーク層						
27～28 回 トランスポート層						
29～32 回 アプリケーション層						

評価コード	3					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験 (100 点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点 (出席および受講の状況) を 20 点の配点とする。成績の評定は、S (90～100 点)、A (80～89 点)、B (70～79 点)、C (60～69 点)、F (60 点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・ 追試験 (100 点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>(2) 上述 (1) 以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1 点未満については切り上げ) を成績の評定とする。</li> </ul>					

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	Webデザイン(727)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	朝倉 奈美				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
Webサイトの制作に必要な知識（HTMLとCSS）を学びます。 Webサイトの構造を表記するHTMLではユーザーが入力する画面（フォーム）記述方法、デザイン部分を表示するCSSではモバイルサイトに対応したレイアウトの記述方法も理解していただきます。						
授業形態	実習	教室	165教室	補助教員	野畑 祐子	
授業はテキストに従って進める実習形式で行い、理解度を深めるためにオリジナルページの制作も行います。 また、授業毎に提出を行い教員側で理解度を把握します。						
教科書 教材	スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第3版（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【前期】						
1回 HTMLの基礎、制作の準備と基本のHTML						
2～4回 テキストの表示（見出し、段落、リスト、要素のグループ化）						
5回 テーブル						
6回 リンク、パスの理解						
7回 画像の挿入						
8～10回 CSSの基礎（テキスト、背景色のスタイル）						
11～12回 CSSの基礎（ボックスモデル、画像の伸縮）						
13～14回 オリジナルページの作成						
15～16回 テスト、解説						
●授業時間：2単位時間/回						
【後期】						
17～18回 前期の復習						
19～22回 スタイルの上書き、レイアウト						
23～24回 2ページ目以降の作成、レイアウト						
25～26回 フォームの作成、スタイル						
27～28回 モバイル端末に対応						
29～30回 オリジナルページの作成						
31～32回 小テスト、解説						

評価コード	13	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>	

## シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	ゼミナール I (936)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	土屋 凌介				実務経験内容	
					[土屋] エンジニアとして、大学のネット出願、会計の基幹システムの設計・開発を担当。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>将来の IT エンジニアとして、IT の知識・技術の習得は必須である。本授業の前期では、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。特に国家試験である情報処理技術者試験への合格を目標とする。そのため、始めに情報処理技術者能力認定試験 2 級 1 部、各種修了試験への合格を目指す。</p> <p>後期では IT 技術の向上を目指し、GUI アプリケーションの制作を行う。この授業および演習を通じて、プログラミングスキルの向上も図る。</p>						
授業形態	演習	教室	165 教室	補助教員	なし	
<p>前期の授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。また、理解度を確認するプリント学習も行い知識の定着を行う。</p> <p>後期の授業はテキストおよびノートパソコンを使用し、GUI アプリケーションの制作が可能なプログラミング言語である C# を使い、プログラム作成演習を中心に授業を実施する。</p>						
教科書 教材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用） 作って覚える Visual C# 2022 デスクトップアプリ入門					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
1～4 回 前期授業ガイダンス、基礎知識獲得演習（数学、情報セキュリティ）						
5～18 回 情報処理技術者能力認定試験 2 級 1 部に関する問題演習、まとめ演習問題						
19～28 回 各種修了試験に関する問題演習、まとめ演習問題						
29～32 回 総合演習、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習						
●授業時間：2 単位時間/回						
【後期】						
1 回 Windows 用アプリケーションの基礎 Visual Studio Community 2022 の基本操作						
2～4 回 プログラム作成の基本を覚える						
5～6 回 「タイマー」の作成						
7～9 回 「付箋メモ」の作成						
10～12 回 「今日の占い」の作成						
13～16 回 「間違い探しゲーム」の作成						
17～27 回 オブジェクト指向プログラミングの考え方						
28～32 回 「魚釣りゲーム」の作成						

評価コード	11					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>					

## シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報システム科 1年B組

科目名	Windows 実習(192)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	新美 あゆみ				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
パソコンの基本操作から Excel・PowerPoint の様々な機能や活用方法など基本的技術と知識を実習形式で学習します。前期 Excel・後期 PowerPoint と、それぞれ資格取得を目指し、就活に役立てます。また、テキストの内容終了後には、身につけた Office ソフトの基本的技術と知識を活かし、実際の仕事で応用が利くよう、実務をイメージした補足資料を配布し、演習を行います。						
授業形態	実習	教室	165 教室	補助教員	野畑 祐子	
授業は実習形式であり、実習は、配布しているノート型パソコンを使用する。						
教科書 教材	Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 対策テキスト& 問題集 Microsoft Office Specialist MOS PowerPoint 365 対策テキスト& 問題集 貸与ノート型パソコン (授業内で適宜使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
【Excel】						
1 回 Windows の基本的な使い方・テキスト事前学習 Excel 基本操作						
2～4 回 出題範囲 2_セルやセル範囲のデータの管理						
5～8 回 出題範囲 4_数式や関数を使用した演算の実行						
9 回 出題範囲 3_テーブルとテーブルのデータの管理						
10 回 出題範囲 5_グラフの管理						
11～12 回 出題範囲 1_ワークシートやブックの作成と管理						
13～16 回 模擬演習						
●授業時間：2 単位時間/回						
【後期】						
【PowerPoint】						
1 回 スライド作成の基本操作						
2～3 回 出題範囲 3_テキスト・図形・画像の挿入と書式設定						
4～5 回 出題範囲 4_表・グラフ・SmartArt・3D モデルの挿入						
6 回 出題範囲 5_画面切り替え・アニメーションの設定						
7 回 出題範囲 2_スライドの管理						
8～9 回 出題範囲 1_プレゼンテーションの管理						
10～12 回 模擬演習						
13～16 回 総合演習						

評価コード	13					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>					